

墓地清掃と市民大清掃を続けることが、地域社会を愛する「若宮会」の役割。

べっ ぶ こうれい わかみやかい
別府高齢クラブ若宮会 松山市



墓地清掃を続けて29年。
美化意識は高まっている。

広大な墓地に30名ほどの高齢者の姿がありました。ある人は雑草を刈り、ある人はビンやカンを拾う…。墓地がきれいになっていく様子に、誰もが満足そうでした。

ここは松山市北部の河野別府地区。墓地清掃をしていたのは、「別府高齢クラブ若宮会」の会員たちです。

「若宮会」が墓地清掃を始めたのは、昭和60年のある会合で会員から「地域のために何か役立つことをしよう」と意

見が出たのがきっかけでした。

それを機に始まった墓地清掃は、毎年8月のお盆と3月春の彼岸の年2回。約2時間をかけて、草刈りや、ビン・カン・ゴミ・不要物の除去などを行います。また、戦死者の墓碑や無縁墓は、掃除をするだけでなく線香を立ててお参りします。

「墓地全体の清掃をしていると、様々な感慨が押し寄せてくるんです。以前、会員の方と話したことがあるんですが、『この方はここに眠っておられるのか』とか、『生前はこんな業績をあげられたのか』とか、思いを馳せるんですね。墓地清掃の時間は、厳かな気持ちで様々なことと向き合う時間でもあるんです」と、会長の青木さんは話します。

「若宮会」が墓地清掃を行うようになって29年。この間に地域の人々の美化意識も高まり、墓地に落ちてくる「ゴミ」は

少なくなりました。墓参に訪れた方々も「気持ちよくお参りできる」と喜んでいきます。

市民大清掃を続けて23年。
地域交流は深まっている。

松山市では、7月の第2日曜日を「松山のまちをみんな美しくする日」として「市民大清掃」を行っています。「若宮会」はこの取組に平成2年からボランティアとして参加し続けています。

「若宮会」が担当するのは、地区を流れる河野川と高山川の河川敷です。本格的な夏はまだとはいえず、河川敷には勢いよく生い茂る草、草、草…。ある会員は草刈り機を使い、ある会員は鎌を使って草を刈り、ビンやカンなどの「ゴミ」を拾い集めていくのです。

市民大清掃は、墓地清掃とは異なり市民総出の一大事業のため、会員以外の市民の方と話すいい機会になっています。



「墓地清掃と市民大掃除を長年続けていて、ゴミの量が減ったのを実感します。私たちの活動がその一助になっているのだとしたら嬉しいですね。同時に、地域とのつながりを一層深められるのも嬉しいです」と、青木さんは話します。

河野別府地区の高齢化率は、平成26年6月現在で34%と高く、今後も進展が見込まれます。会員の高齢化が進み、会員数も減少していく中、会の活動が地域社会に貢献していることを広く知らせることで、会員の増強と活動の継承を図っていきます。